



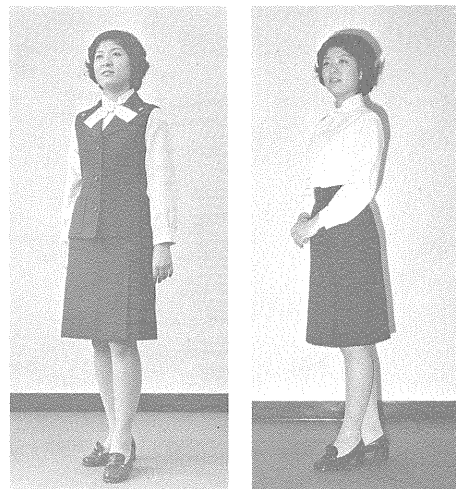
### 創立50周年

地元の繁栄に資するという経営理念を貫いて50年、昭和45年に当行は創立50周年を迎え、これを8千億円の預金達成で飾った。この間、外に向かっては銀行に対するニーズを先取りした金融サービスの向上に努めるとともに、地域社会への貢献を意図した施策を展開し、内については人材育成・福利厚生の充実を図った。

昭和45年の創立50周年を飾る8千億円の預金目標はみごと達成された。それを祝ってダルマに目を入れる伊原頭取



創立50周年を記念して、地域社会への貢献を目的に2つの財団が設立された「横浜銀行中小企業従業員福祉事業基金」と「神奈川経済研究所」である。福祉事業基金の援助で海外に派遣される青年たちの壮行会(右)と経済研究所によって刊行された数多くの地域経済資料(下)



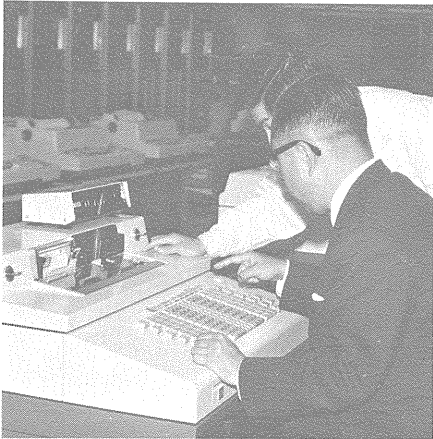
クリスチャン・ディオールのデザインによる新事務服

### 総合オンラインへ

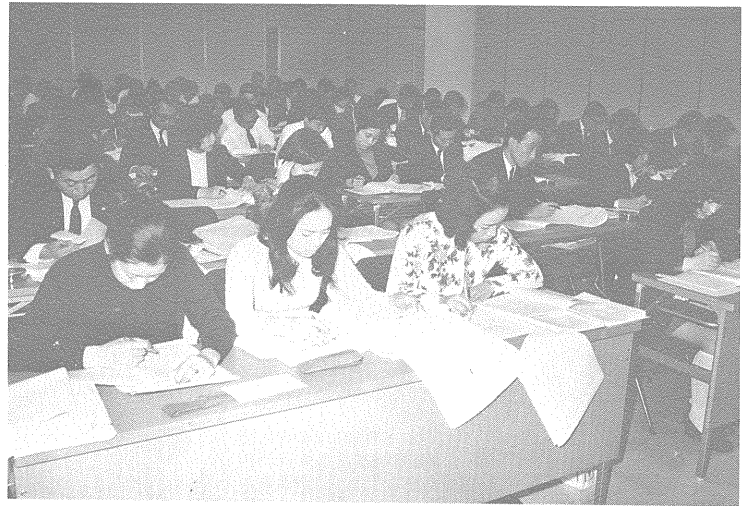
昭和30年代に始まった銀行業務の機械化は、大衆化の進展による事務量の増大に伴って急速に進展した。電算機の性能と活用技術の向上が相まって、PCSからオフラインそしてオンラインへと進んだが、当行も43年からその具体化に着手し、全店・全科目をオンライン化した総合オンラインが46年から稼働に入った。



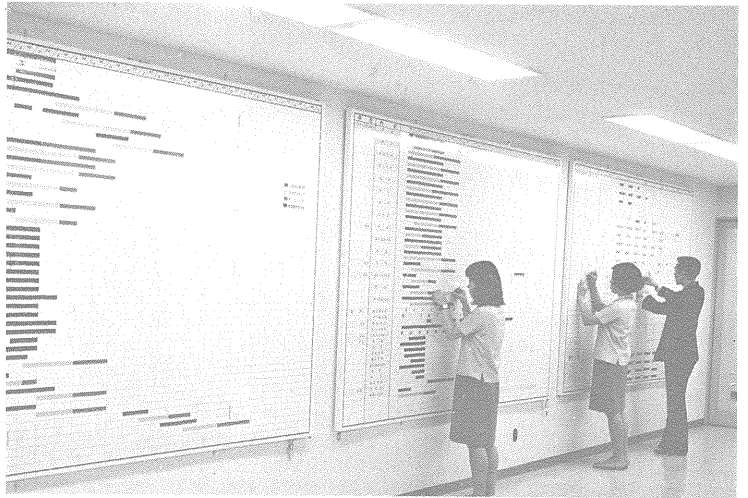
総合オンラインは昭和48年完成を目指しスタートした(46年開通式)

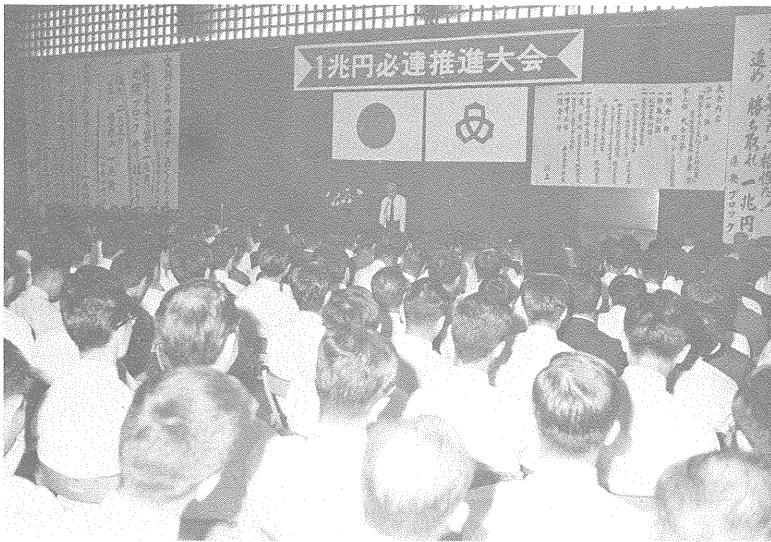


画期的といわれた総合オンラインの準備には多大の時間と労力が費された。役員への説明(上)と各ブロックで行なわれた説明会(右)



転換作業を支援するオンラインチーム(上)と転換作業を管理するシステム開発室のスケジュールボード(右)





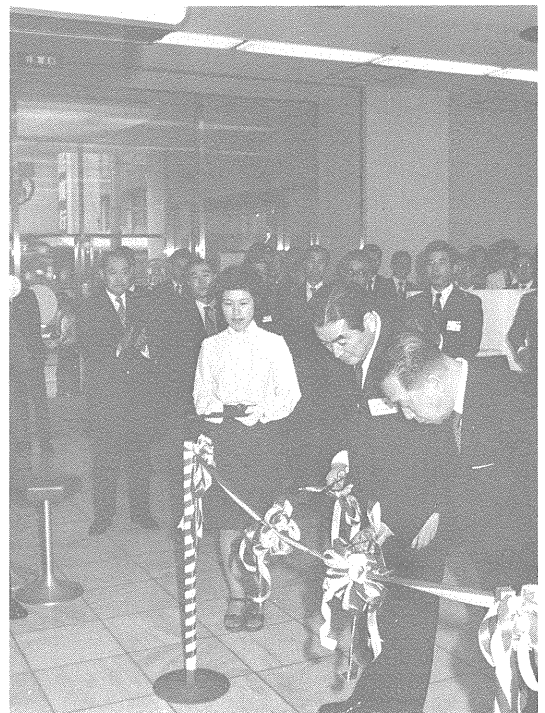
### 総預金1兆円の達成

ニクソンショック・石油危機を契機にわが国経済は大きく変貌し、これに伴って銀行をとりまく経営環境も激動した。この間当行は、昭和47年に総預金1兆円の大台を突破し、さらに中期計画を策定して2兆円への前進を続けていたが、一方環境の激変に伴うさまざまなひずみも表面化し、経営の効率化が強く要請された。

昭和47年3月、業容拡大の大きな節である総預金1兆円は、全行の意欲の結集によりみごと達成された



かつてのグリーンバスの経験を生かして移動出張所が再登場 銀行店舗のない団地住民などへのサービス推進に努めた



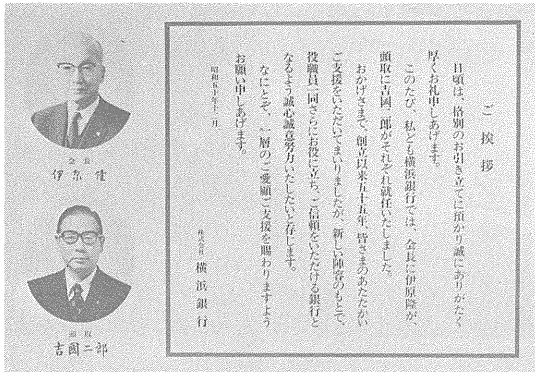
昭和48年9月、横浜高島屋に設置された店舗外CD第1号の開通式

## 伊原・吉國体制の確立

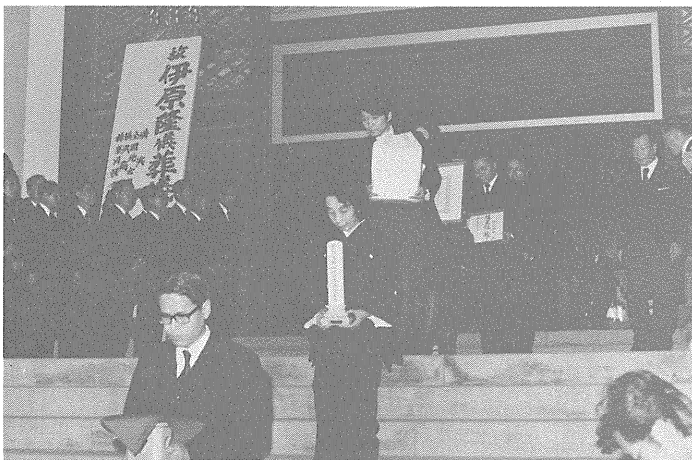
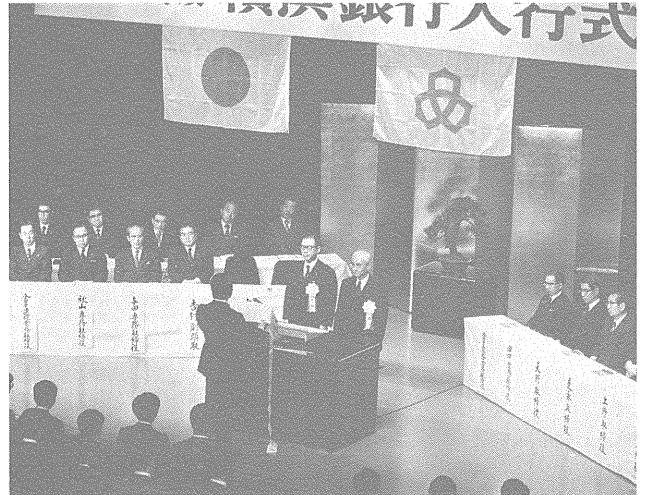
昭和50年、吉國新頭取を迎えて伊原会長・吉國頭取の新体制を確立した当行は、厳しい経営環境のなかで総預金2兆円を実現した。そしてこれに続く一年を地固めの年として体制整備に努めた。その間伊原会長の死去という不幸に見舞われたが、吉國体制の下で地固めを完成し、新しい飛躍への基盤づくりを着々とすすめた。



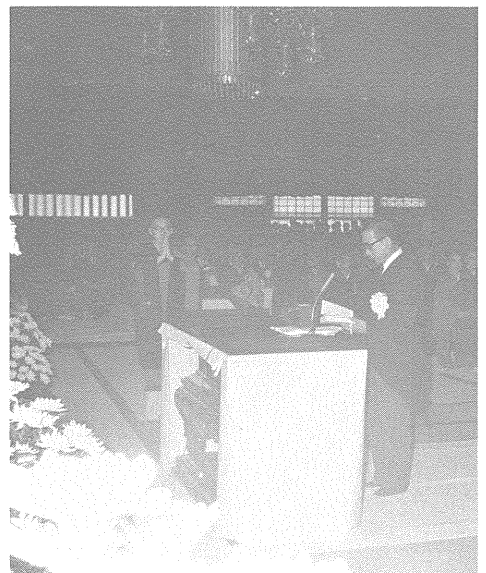
昭和50年12月、伊原頭取は会長に就任し、新頭取に吉國二郎を迎えて当行の新経営体制は確立された。頭取引継の辞を述べる伊原会長(上)と会長・頭取の就任あいさつパネル(下)



51年度入行式で新入行員の決意表明を受ける会長と頭取 2人が揃って入行式に出席したのはこれが最初で最後であった



昭和37年以来14年、コミュニティバンクの理念を掲げて当行の発展をリードしてきた伊原会長の突然の死は、行内に大きな衝撃を与えた。当行はじめ関係4団体の合同葬には、政・官・財界からも多数の名士が参列し、会長の各方面に遺した業績の偉大さを偲ばせた。弔辞を述べる吉國頭取(右)



## コスモプランの策定

1年にわたる地固めによって体制を整えた当行は、吉國体制のもとで、新しい経営環境に適応した経営の構造改革を計画的にすすめるため、中期経営計画の策定に入った。そして昭和52年4月、創立60周年に当たる昭和55年下期を目標年次とする“コスモプラン”が発表された。



当行の国際業務の進展を象徴し、昭和50年ロンドン支店(左)、52年ニューヨーク支店(上)と2つの海外拠点が誕生した



昭和52年4月、創立60周年を目標とするコスモプランがスタート 県立音楽堂で開催されたコスモプラン推進大会と訓示する吉國頭取(上)